

## 「JAF エアロビク競技・採点規則 2017-2020」確認事項

### 1. 公式競技「リフトとコラボレーション」について

- ① リフト時のプロペリングをする際に、空中位になったトップ（持ち上げられている選手）の高さに制限はない。（解釈の変更）
- ② リフト中のみ 3/4 回転（270°）宙返りは、禁止動作にならない。（解釈の変更）
  - ☆ フロアの上で後方宙返りをしてプッシュ・アップ・ポジションで着地した場合には、フロアの上で 3/4 回転宙返りをしたとして、「付録 5 禁止動作 P-5）1 回転（360°）に満たない宙返りの実施」として主任審判員からの減点になるが、リフト中のみプロペリング動作で 3/4 回転宙返りを実施しても主任審判員からの減点にはならない
- ③ コラボレーションの際のプロペリング動作（空中位の段階への放り投げ動作）は不可。プロペリング動作はリフト中でのみ可だが、直接空中位への宙返りを実施することは不可。（確認）

### 2. 公式競技「2 個のアクロバティック・エレメントの連結」について

立位から立位で側転を実施するとアクロバティック・エレメントと認識され、フロアから立位で実施された側転や、立位からフロアへ実施された側転はアクロバティック・エレメントとして基本的には認識されない。しかしながら、側転の開始ポジションに関わらず、側転とアクロバティック・エレメントの連結は 2 個のアクロバティック・エレメントの連結とみなし、「禁止動作(P-7) アクロバティック・エレメントの連結」で主任審判員から「0.5 点」の減点が入る。（解釈の変更）

### 3. 公式競技「難度エレメント」について

- ① 「スプリット・リープ」は「スプリット・ジャンプ」のバリエーションと認識する。（解釈の変更）
- ② 「バタフライ・ジャンプ」は、空中に跳び上がる跳躍動作の踏切の前に、フロアの上で半回転（1/2 回転）しなければならない。また、空中位では背中が少し反り、真っ直ぐに伸ばした両脚は、後方に開脚位に蹴り上げて、交互に水平位以上を通過する。（確認）
- ③ 「イリュージョン」で「持ち上げた脚が垂直面で完全なローテーションを描けない（180° 未満）」の確認として、フリーな脚が 170° 開脚して完全なローテーションを実施していたならば、実施審判員が「0.1 点」の減点を行い、難度審判員は難度エレメントの最低条件を満たしていたならば評価点を与える。しかしながら、フリーな脚が 170° 未満の開脚で完全なローテーションを描いていなかった場合には、実施審判員が「0.3 点」の減点を行い、難度審判員は評価点を与えない。（確認）
- ④ 「ターン・ウィズ・レッグ・アット・ホリズントラル」実施の際、回転中にフリーな脚が水平位でない場合、難度審判員による難度エレメントの評価点は得られず、実施審判員が「0.3 点」の減点を行う。（確認）

#### 4. 公式競技「ユースの必修エレメント」および「ジュニアの課題動作」について

- ① ユース1の必修エレメント「1/1 ターン・トゥ・バーティカル・スプリット(D153)」で、「バーティカル・スプリット」の動作を実施できなかった場合には、難度審判員による評価点は「0.0点」だが、必修動作の欠如にはならず難度減点はなし。(解釈の変更)
- ② ユース2の必修エレメントの「イリュージョン・トゥ・バーティカル・スプリット(D265)」、または「フリー・イリュージョン・トゥ・バーティカル・スプリット(D286)」で、「バーティカル・スプリット」の動作を実施できなかった場合には、難度審判員による評価点は「0.0点」だが、必修動作の欠如にはならず難度減点はなし。(解釈の変更)
- ③ ジュニア男女混合シングル部門の課題動作「倒立」では、倒立動作の実施が認識された場合には実施レベルを問わず、主任審判員が「1.0点」の加点を行う。(解釈の変更)
  - ◇ 身体(両腕と体幹、両脚)が垂直レベルで静止できていなくても、明確な倒立動作として認識できれば加点される。
  - ◇ 明らかに倒立動作に見えない動きの実施のみ加点されない。
  - ◇ 基準の判断は主任審判員が倒立動作の指導の目線を十分踏まえた形で、選手育成の観点で判断する。

#### 5. 公式競技「芸術審査」について

「AMP シークエンス以外の内容」で「G+」の評価について(確認)

- ◇ 「G+」の評価を得るには、下記の要素を含み、動作間がスムーズで明確な高い実施レベルのものでなければならず、下記の要素を実施する際には、選手自身の高い調整力をはじめ、高い身体能力が必要とされる。
  1. 複雑度
  2. 多様性
  3. 流動性
  4. 独創性/ユニークな動き
  5. ダイナミック
  6. 予測不可能
  7. 機敏な敏捷性のある動き
- ◇ 単にアクロバティック・エレメントの実施、またはアクロバティック・エレメントと振り付けとしての跳躍動作を実施しても、自動的に「G+」は得られない。
- ◇ 動作をただ単に連結(例:側転 + 前転 + カポエイラ動作)しても、自動的に「G+」は得られない。
- ◇ ミックス・ペア部門やトリオ部門、グループ部門におけるリフトやコラボレーションに対しても同様の考え方が適用される。

以上